

東敦子没10周年記念ガラコンサート
「プリマドンナ東敦子さんを偲んで」に

出席して
十七回生 友野 信善



二〇一〇年一月一日(木) (町田市民ホール)
の主題コンサートに、奥田事務局長はご都合で出席されず、チケットが私に廻って来ました。そこで勇躍参加させて頂いた次第です。

まずは、最前列中央席に居られるご母堂、東寿子様にご挨拶申し上げます。ご息女ご逝去の

悲しみの日から10年の歳月が過ぎましたが、3年前に電話でご挨拶申し上げたときと変わらぬ矍鑠としたお声でご応対賜りました。本当に頭の下がる思いです。

出演者の3名は、いずれも東敦子さんを師と仰ぐ、日本の音楽界の最前線で活躍されているヴィルテウオーソであり、海外でも大活躍の皆様です。

大岩 千穂 ソプラノ 第10回グローバル東敦子賞授与
佐野 成宏 テノール 第8回グローバル東敦子賞授与
稲垣 俊也 バリトン 第3回グローバル東敦子賞授与

演奏曲目は後述のプログラムの通りです。それぞれの独唱、二重唱、三重唱、アンコールに至るまで、それこそさまざま限りの魂の入った演奏が続きました。感激の波が押し寄せ、客席の我々も思わず感涙にむせびました。こんなことは滅多にありません。

最後に出演者の皆様がそれぞれに師を語る時がもたれました。

大岩さん：蝶々夫人の全てを教わった。着物の着付け、細部の所作、まばたきのひとつまで、丁寧にきびしく指導された。

佐野さん：この世の声は決して有限ではない。今も、先生の声は私どもに残っている。オンリーワンの仕事をと、プリマドンナ東先生に見つめられている。先生とデュエットのステージで、先生の指先で肩を押さえられた感触は絶対に忘れられない。

稲垣さん：抜群の存在感を鮮烈に思い出す。なにごとにも「オ」の字をつけるように言われた。「オ月謝」、「オレッツスン」、「オモーツアルト」(一同大笑い)。何時の日か天国でお目にかかれたとき、おほめのことばを頂くようになりたい。

まさに東敦子さんは不滅であると思わせて頂きました。

主なプログラム

グノー 「ファウスト」より宝石の歌 (大岩)
モーツアルト 「フィガロの結婚」よりもう飛ぶまいぞこの蝶々 (稲垣)
グノー 「ロメオとジュリエット」よりああ太陽昇れ (佐野)
シャルパンティエ 「ルイズ」よりその日から (大岩)
ロッシーニ 「セビリアの理髪師」より陰口はそよ風のように (稲垣)
プッチーニ 「トスカ」より妙な調和 (大岩)
プッチーニ 「トスカ」より第一幕愛のデュエット (大岩、佐野)
ヴェルディ 「ドン・カルロ」より一人寂しく眠ろう (稲垣)
ヴェルディ 「ルイーザ・ミラー」よりこの穏やかな夜に (佐野)
ヴェルディ 「椿姫」より花から花へ (大岩)
ヴェルディ 「シチリア島の夕べの祈り」よりああパレルモ
ビゼー 「カルメン」より花の歌 (佐野)
プッチーニ 「蝶々夫人」よりある晴れた日に (大岩)
グノー 「ファウスト」よりフィナーレの三重唱 (大岩、佐野、稲垣)